

グルジア・アルメニア旅行記

2011-8-20 ~ 27

山本正志



8月20日(土) 20時30分 関西空港集合

22時30分関西空港発 トルコ航空(TK-047便)にてイスタンブールへ。今回の参加は22名、大阪からの参加者も多い。夜間13時間の飛行の後、現地時間21日(日)午前5時35分 イスタンブール着。イスタンブール半日観光。現地ガイドは男性のハイルさん。

イスタンブールはボスポラス海峡(南北約30km)の両岸の都市で、人口1200万超、前はコンスタンチノーブルと呼ばれていた。イスタンブールと呼ばれるようになるのは、トルコ革命後の1930年のことで、首都はアンカラに移された。

98%がイスラム、現在はラマダンで昼間は飲食しない。しかし、厳格な規律でなく従ってない人も多く、「この国は政教分離です。大統領もモスクにくる人も、来ない人もいます」という。トルコはEU加盟を目指しているが、人権、宗教、民主的政治制度などの基準を満たさねばならない。

早朝、ガラタ橋から観光スタート。休日だからなのか、橋の上の歩道は釣り人でいっぱい。何が釣れるのかと覗いてみると、子アジ、ハタハタ?、少し大きめの魚はこはだに似ている。(写真右)



ボスポラス海峡の先は黒海



次に訪れたのがヒッポドロームというエジプトのオベリスク、4面にエジプト文字の彫刻があり4世紀ごろの製作という。スルタンアフメット・ジャーミイは「ブルーモスク」と呼ばれている。(写真左) 巨大なアヤソフィア(ハギアソフィア)博物館、トプ(大砲)カプ(門)宮殿などを観光。

13時10分にイスタンブール発、トビリシへ。16時25分、トビリシ空港着、ホテルへ。現地ガイドはシシマリさん。

神戸大学留学経験者で6カ国語ができる。一月前大学を卒業した22歳、将来の夢は外交官という。ホテルで夕食、その後周りをブラつくが、隣がスーパーで、ハイネケンとカシュナッツで寝る前に一杯。

22日(月)ホテルにて朝食。

バスで郊外にある紀元前4 - 5世紀に栄えたムツヘタへ。まずは山上のジュヴァリ寺院(586-604 建立。ジュヴァリとは十字架の意味)の「砦」のような教会は周辺の「下界」からはまさに「天上の世界」であったに違いない。バスは下界に降りてスヴェティツホヴェリ大聖堂へ。

ダム湖畔のアナヌリ要塞、ダム湖では強い日差しの中で家族が短水浴を楽しんでいた。

山道を登り、途中のグダウリのホテルにて昼食。この山岳地帯にあるリゾートホテル群は冬のスキーシーズンは大賑わいで人気が高いという。しかしリゾート地域を抜けると、道路が悪くなってノロノロ運転。やがて最高地点2384mの十字架峠を超えると旧「南オセチア協和国」領土。(現在の「国境」ははるか北)。やがて、コーカサス山脈の山並みが美しく見えるカズベギへ。ところが最高峰のカズベキ山(5033メートル)の見える広場にたっているのはカズベギの像だと思ったが、台座の正面がコンクリートで塗りつぶされて読めない。シシマリさんによると、カズベキという人物はグルジア独立主義者でその言動を快く思っていないロシアの意向で正面が塗りつぶされてしまった、ということらしい。再びトビリシに戻る直前、バスは脇道にはいりしばらく行くと右手に同一企画の生前とした住宅街が現れた。シシマリさんによると「南オセチアから脱出した人たちが暮らす「難民キャンプ」だという。一瞥しただけだが、5万人に及ぶ人工の「町」が草原に出現して、元の生活に戻れない状態が今も続いている。



山上のジュヴァリ寺院からの眺望

南オセチアをめぐるロシアとグルジアの紛争

2008年8月の北オセチア共和国へのグルジア軍の攻撃以来、ロシア軍の侵攻によって南オセチア共和国はグルジアから独立したというのがロシア側の言い分。しかしこの主張はごく少数の国しか承認されていない。



5万人が暮らす難民キャンプの住宅

この紛争の経過について、バスの中で長砂

先生から「ミニ講座」でお話があった。「北京でのオリンピック開催中、アメリカの支援をあてにしたグルジアのサーカシビリ大統領が突如北オセチア(ロシア領)に攻撃を仕掛け、ロシア軍の激しい反撃でグルジア領の南オセチアを占領され、南オセチアが『独立』を宣言。アメリカはグルジアを支援しなかった。しかしロシア以外『独立』を承認する国はほとんど無い。」

ところがシシマリさんは「それは違う。明らかにロシア側の企てた不当な侵攻だ」という。シシマリさんは、「南オセチアの政府の建物も学校も病院もすべて破壊されて人は住んでいません。ロシアは衝突の起きる前に南オセチアの住民にパスポートを配布しました。(ロシアのパスポートは14才以上の全ての市民に交付され、学歴、職歴、兵役、結婚など全ての個人情報記載される)受け取った人たちはロシアの北オセチアへ逃げました。受け取ることを拒否した人たちはロシア軍の支配下ではとどまれないので、すべてグルジア領内に難民として流れ込んできました。難民キャンプはあちこちに政府によって建設されています」という。もちろんそうした人たちの生活も仕事も教育も医療も政府によって保障されている。しかしこの問題はグルジアの人たちの間では複雑な受けとめ方をされているようだ。「就職ができない大学卒業生がいるというのに難民だからという理由で就職が優先される。あるいは無職でも生活が保障されることはどうか」といった声もあるという。

レストランにて夕食。隣の席はワイワイと盛り上がり何度も「乾杯！」をやっていた。やがて民族舞踊が始まったが、「現代風コサックダンス」といったところ。夕食後にホテルで、大阪府連の小湊さんがスーツケースにいれて運んできた子ども向けの本をグルジア日本友好協会のクメラテ先生へ贈呈した。

23日(火) ホテルにて朝食。

カヘチア村へ。バスの中では、昨晚、本の贈呈の後、クメラテ先生のご家庭に招待された夕食会(レストランで夕食は済ませている上に)の様子が参加した長砂先生から報告された。長砂先生のお話では、招かれたクメラテ先生(78才)の自宅は8階のアパートの最上階だったが、階段や入口を見ると少し見劣りがする様相で心配していたが、中に入ってみると広くて立派な部屋が6室もあり、グランドピアノも置かれていたので驚いたという。シシマリさんも同じように、「私が日本に行って神戸大学に留学したとき、灘区に住むことになりましたが、部屋が狭いことに驚いた。グルジアでは考えられない」という。経済大国といわれながら、グルジア人の生活様式から見て「豊かな国・日本」といえるのだろうかと考えさせられた。

その後は私の用意したレジメをお配りして「福島原発事故と脱原発社会の展望」のお話を聞いていただいた。質問も出されて有意義な交流となった。やがてバスは田舎のワインセラーへ。家庭料理の昼食。帰路は時間もあるので自己紹介で全員の発言、やっと互いの顔と名前が一致して交流が深まった。

トビリシに戻り、市内観光。国立美術館では、ピロスマニを中心に民族作家の作品が展示されている。その後メテヒ教会、シオニ教会、地価温泉を負う地上の屋根だけを見て回る。



メテヒ教会



シオニ教会



地下温泉

レストランにて夕食。グルジアのレストランでのビールはとにかく安い。大ジョッキが3ラリ(約150円)。ホテル近くのスーパーで500mlのキャンビールを買っても3ラリ以下。ただしワインはグラス半分程度が9ラリというから少し高い。ホテルにかえて明日の準備。明日はアルメニア。

24日(水) ホテルにて朝食。専用車でアルメニアのエレヴァンへ出発。

アルメニア国境サダフロに到着。ここでバスとシシマリさんとは一時お別れ。国境を通過するとアルメニアのバスとガイドさんが待っている。ガイドさんはハズビックさん。国境検問所を出発すると山の中、脇道に入って狭い山道をバスで上っていくと丘の上にハフバット(硬い壁)修道院。世界遺産にも登録されている。土産物の店で可愛い毛糸編みの靴を買う。3000ドラム(約660円)。

やがて2台の大型バイクが上ってきた。ナンバーを見るとPLとあるので「ポリッシュ?」と聞くと「Yes」という。バイクはHONDA。

山を下って間もなくレストランに到着、昼食。



ハフバット修道院

さらに走って、サナヒン修道院に着く。

途中、セヴァン湖にて一時休憩、丘の上のセヴァン修道院からセヴァン湖を望む。標高 1900m。首都エ



セヴァン湖

レヴァンに向かう。グルジアと比べて道路がよく整備されていてバスも快適、市内部に入ってくると車も多くなってきたが、どの車も洗車されていてきれいだった。トビリシと少し違うな、と感じた。

グルジアはロシアとの関係でも難民問題やワインの輸出停止など厳しい対立状況にある。そう言えばアルメニアに入ったとたんロシア語の看板が見

られたが、ハズビックさんは「アルメニアの教育制度」についての解説で、小学校では母国語の他にロシア語を教えているというから、ロシアとの関係も両国でかなり違うように思われた。

レストランにて夕食後、ホテルに到着は9時半。マリオットホテルの前の広場は共和国広場。夜の10時だというのに大音響の音楽がながれ、広場の中心の噴水が曲にあわせて次々と噴出、見ていても楽しい音楽と噴水の芸術。子ども連れの若い人たちも多く、子どもが曲にあわせてダンスをはじめた。この時期、毎晩午後11時まで共和国広場で催されているという。

美しい噴水のイルミネーション



25日 (木) ホテルにて朝食。



アララット山

エレヴァン郊外にある、ノアの箱船が流れ着いた山として有名なアララット山、大アララットと隣の小アララットが連なっているが、山麓には国境を警備する監視塔がたっている。アララット山はトルコ領になる。ホルヴィラップ修道院からのアララット山の眺めはすばらしいが、修道院に入って「キリストの使徒聖グレゴリウスが13年間閉じこめられていた」という地下室に垂直の梯子を使って降りてみる。直径3mくらいの丸い石造

りの冷やかな光も指さない地下室に隠れて13年間も耐えられたものだと、信仰心の強さに敬服する。伝説によると当時キリスト教を迫害した王様が重い病気で倒れ、治療法がないといわれた。その時王様の姉が夢の中で「聖グレゴリウスと話をすれば病気は直る」といわれ、王様が地下室に隠れていた聖グレゴリウスを呼んで話をすると病気は直った、そこでキリスト教をみとめ、国教とした、という。

「アルメニアにきてアララットを近くに見たので今回のたびは満足」とは土井さんの弁。次は予定になかったアミチアジン修道院へ。(写真右) 宝物庫には法衣や王冠が展示されていたが撮影禁止。

その後、マテナダラン(古文書保管所)。羊皮紙に書かれた文字と鮮やかな絵、トルコ語から翻訳された文章がトルコに残っていないためこの文書館の資料が役に立っているという話だった。

レストランにて昼食。ここでマスとサーモン料理が出たが、ガイドのハズビックさんの粋なはからいで、なんとお醤油とぼん酢の小ビンが用意されていた。



午後はバスを走らせて、コタイク地域へ。ガルニ神殿では4人の女性のアカペラは石室の壁に反響して

すばらしかった。再びバスは山の中の道路を通過してゲガルド修道院へ。これでアルメニアの世界遺産を5カ所訪れたことになる。



ガルニ神殿

ゲガルド修道院



エレヴァンに帰って、ホテルの近くのレストランで最後の夕食。女性3人と男性1人のボーカルに可愛い女の子が飛び入りで参加。夕食語、最後の買い物でスーパーへ、アルメニアに来てコニャックをまだ味わってなかったと思い、「アララット」5年ものを9700ドラム（2000円余）を買った。

ナゴルノ・カラバフ問題はハズビックさんによると、1991年当時は140万人の人口が現在は14万人になっているという。アルメニアは1995年に独立を認めたが、軍隊は単一の組織という。ついでながら、アルメニアには日本大使館はない。ハズビックさんは日本留学の手続きのためにはモスクワまで行くのだという。

ナゴルノ・カラバフ紛争

アルメニアとアゼルバイジャンが争っているのはアゼルバイジャンの西部にある山岳地帯に存在するアルメニア人居住区である「ナゴルノ・カラバフ自治州」である。

このナゴルノ・カラバフ自治州は住民の4分の3がアルメニア人。この自治州がソ連崩壊直前からアルメニアへの帰属を求め、アゼルバイジャンとの紛争になった。

アゼルバイジャンはトルコと友好関係にあるイスラム教

(シーア派)が多数住む国であるが、その一方、ロシアと関係をもつアルメニアは、キリスト教国。

ソ連の崩壊に際し、両国は共に1991年に独立を果たすが、1992年に、ナゴルノ・カラバフ側が一方的に「ナゴルノ・カラバフ共和国」として独立を宣言した。ナゴルノ・カラバフ側にはアルメニアが加担し、本格的な戦争に発展。1994年に停戦が成立。紛争により、2万人の死者、難民は100万人以上といわれている。アルメニアがナゴルノ・カラバフを占拠したままになっており、未だに解決の目処は立っていない。

「もしナゴルノ・カラバフ問題が解決すれば、ガス・石油のパイプ・ラインはグルジアを経由することなくトルコにつなげることができる。それはロシアにとってグルジアを完全に孤立させることにつながる。ロシアとトルコとの間に話がつけば、ロシアのエネルギー資源ばかりではなく、中央アジアのガス・石油資源も同様に、このルートを活用できるということになる」（佐々木良昭・東京財団上席研究員）



26日 (金) ホテルにて朝食。朝7時出発。

来た時の逆コースをたどるが、早朝のセヴァン湖は山並に水面近くまで雲がかかって幻想の世界。外気は12℃。エレヴァンとトビリシの間には鉄道もあるが「バスのほうが早い」という。急行でなく、継ぎ目のある旧式のレールで貨物列車がゆっくりガタンゴトンと走っていたから旅行客もあまり利用しないのだろう。



国境まで50分、山間に石積みの家の外壁だけが点々とある。「あれは別荘で土地は国から借りて自分でやってきて建っている」のだそうだ。あと15分で国境というところで雨模様。

国境サダフロに到着。入国審査を終えると再びシシマリさんがお出迎え、トビリシ市内まで約1時間、レストランにて昼食。グルジアで水餃子にはびっくり。ゆっくり食事をした後、空港へ。空港でドライバーさんとシシマリさんともお別れ。

17時15分 イスタンブールへ離陸。イスタンブール現地時間で19時(時差1時間遅れ)に到着。ここでトルコ入国組と空港内滞在組に別れ、一隊は地下鉄で市内へ、一隊は出国手続き後空港内で買い物など。インターネットで日本の情報が欲しいと思い、空港内や隣の国際ホテルのビジネスセンターを訪ねるが、「日本語表示ができません」ということや、「ホテルにはビジネスセンターはありません」ということで、あえなく断念。「国際空港」といっているのだから何とかしてほしい!と思うことしきり。再出国手続きをしてゲートに到着。23時50分 イスタンブール発。関西空港到着は日本時間で、27日(土)16時55分。無事帰国。



カズベキ山と手前のツミンダ・サメバ教会



アルメニアの銅山(フランス資本)



アナヌリ要塞



アルメニアは大半が山岳地域